

令和3（2021）年11月15日

第6次川島町総合振興計画を官学金民連携により策定！

明治大学西村弥ゼミ及び埼玉縣信用金庫、かわじま☆未来塾と連携し、職員が自分たちの力で計画を策定

埼玉県川島町（町長：飯島和夫）は、10年間のまちづくりの方針となる「第6次川島町総合振興計画 基本構想 前期基本計画（以下、「本計画」という。）」を、令和3年10月15日に策定しました。本計画は、町の将来像を自分たちの手で描いていくことを目指し、外部のコンサルタントではなく、町民や大学から意見を集め、職員が自分たちの力で策定しました。



策定にあたっては、「町民の皆さまが手に取って読みたくなる（第6次川島町総合振興計画 表紙）計画書」、「わかりやすくまちづくりの方針が伝わる計画書」とすることをコンセプトとし、町職員で構成する「川島町未来創造プロジェクトチーム」を中心に編集を進めました。

策定を進める中で、専門的な知見が必要な場面では「明治大学 政治経済学部 西村弥ゼミナール」と「埼玉縣信用金庫」と連携し、内容の充実を図りました。

また、町内の有志で活動する「かわじま☆未来塾」からは、本計画が町内に住む方たちにとって

より良いものとなるよう提言書が提出され、本計画への反映を図りました。

このように進められた本計画策定までの取組について、次のとおりご紹介します。

■川島町未来創造プロジェクトチームの取組

各課から選出された職員によりプロジェクトチームを構成し、今後のまちづくりに関する議論を重ねました。2030 年の本町の姿を描くことからスタートし、求められる施策やロジックモデルに基づく評価指標の設定など、所管施策の立案に注力しました。

編集にあたっては、後述の明治大学学生によるヒアリング調査や、評価指標設定のスキル向上のための研修等に積極的に取り組み、まちづくりの方向性をまとめました。

本チームでは、本計画の思いを町民、町内事業者、町で共有し、協働でまちづくりを進められるよう「わかりやすく、心に残る基本理念」の作成にチャレンジし、職員が提案した多くの候補の中から「**ここが好き、やっぱり好き**」を選定しました。

この基本理念は、人口減少が進む時代において、本町が目指すべきまちづくりの方向性を「町民の町への愛着（シビックプライド）の醸成」「町民が感じる町への住みよさに関する満足度の向上」と定め、「町を好きと思う気持ちを育てる」ことを政策の中心に位置づけました。

■明治大学 政治経済学部 西村弥ゼミナールの取組

行政学を専攻する「明治大学 政治経済学部 西村弥ゼミナール」と共に、町の課題や現状分析、政策立案、本計画の進行管理といったテーマで共同研究を進めました。令和 2、3 年度でメンバーを変えつつ、本計画の充実に向け、学生たちが関係者へのヒアリング調査や他自治体の事例研究を進めました。

学生たちは、研究初年度は今後 10 年間のまちづくりを考えるため、学生目から見た 2030 年の町のあるべき姿を設定し、その実現のために必要な政策をまとめる「バックキャスティング」の考え方を基に研究を進めました。

そして2年目は、まちづくりの評価や改善の方法について、本町の取組状況の調査や他自治体の事例を参考にしながら提言をまとめました。

それぞれの年度で、町長及び副町長、教育長、議会議員や町職員向けにプレゼンテーションを行い、多くの方に研究成果を報告しました。



(令和2年12月23日 成果報告会)

※明治大学 HP MEIJI NOW でも紹介されています。

「行政学を中心に政治・経済を幅広く学び社会を見る目を養う」

<https://meijinow.jp/study/seminar/55609>

■埼玉縣信用金庫の取組

埼玉縣信用金庫と本町で締結する「地方創生に係る包括連携に関する協定」を基に、本町とともに将来の町のあるべき姿を示す計画の策定と、地方創生の実現を目指して本計画の策定に向け、2カ年度にかけて様々な取組を行いました。

令和2年度は、町民の政策ニーズを把握するため、「第6次川島町総合振興計画策定のための町民アンケート」を埼玉縣信用金庫の協力を得て実施し、結果の分析や課題を抽出しました。アンケート結果を踏まえ、他自治体とのクラスター分析や効果的な指標設定に向け町に提言しました。

令和3年度は、前年度の分析結果を基に、職員の未来創造プロジェクトチームを対象にした評価指標設定に向けた研修会を開催しました。

以上のとおり、2カ年度にわたり、本計画の充実や実効性の向上に向け、本町と連携して多くの活動を推進しました。



(令和3年2月12日 町民アンケート結果報告)



(令和3年4月22日 職員向け研修会)

■かわじま☆の未来塾の取組

町内の有志が集まり、まちづくりに関する政策研究などを行っている「かわじま☆未来塾」が、本計画に町民の声を反映し、今後10年間のまちづくりの方針が、町民目線となるよう提言書をまとめました。

塾生たちは、「健康長寿に向けた取組に参画したい」「子どもたち一人ひとりに合った学校教育が求められる」「障がい者福祉のさらなる充実が必要」など、様々な政策分野に対して提言を行い、提言書提出の際は町長と活発に意見を交換しました。



(令和3年2月26日 提言書手交式)

■町民の皆さまが手に取って読みたくなる計画書のデザイン

本計画の作成において重要なポイントである「町民の皆さまが手に取って読みたくなる計画書のデザイン」の作成にあたっては、インタビュー等により町民が持つ本町への気持ちを感じ取りながら計画書のデザインを進め、概要版を町内の全世帯へ配付した後は、「デザイン性が良く、もっと内容を読んでみたくなった」という感想が寄せられました。

■本計画の着実な実行に向けて

これまでご紹介したように編集を進めてきた本計画を着実に実行し、より効果的なまちづくりを進めるため、町では進行管理のあり方を見直すなど、実効性の向上に努めています。

今後は、本計画を町民や事業者の皆さまとの協働で推進し、町に関係する多くの方にとって「ここが好き、やっぱり好き」と感じてもらえるような活動を進めていきます。

以上